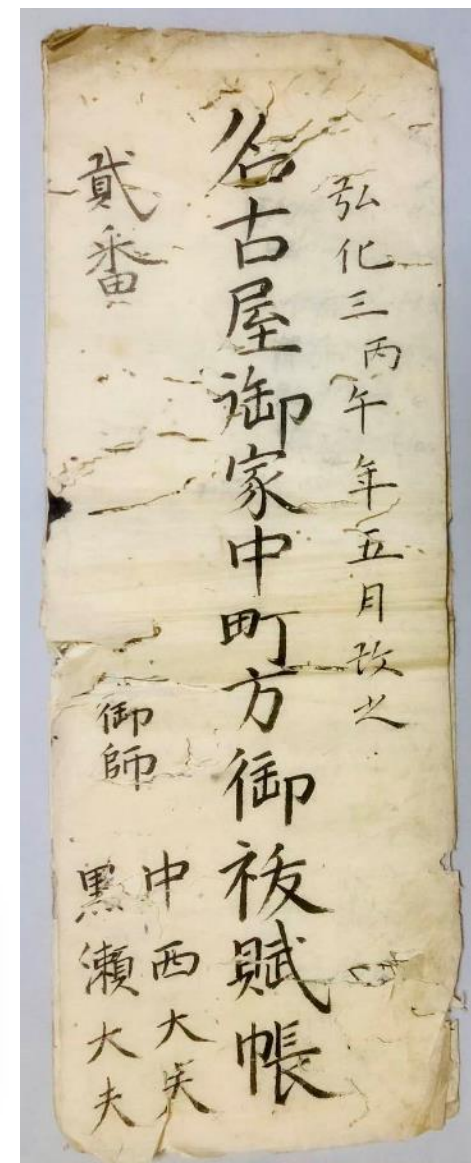
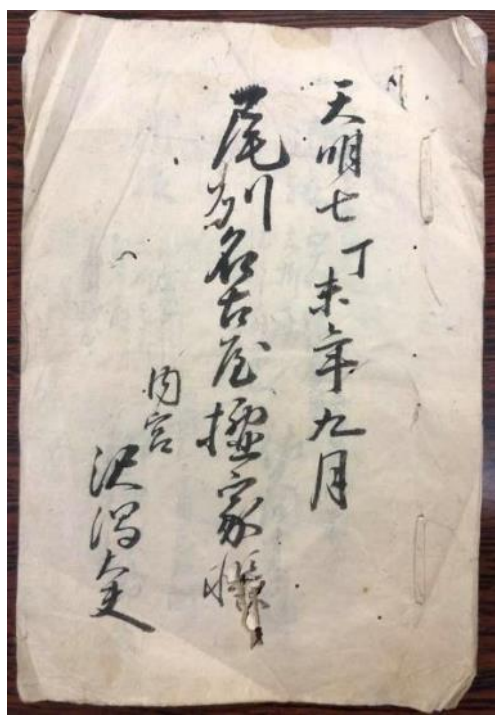
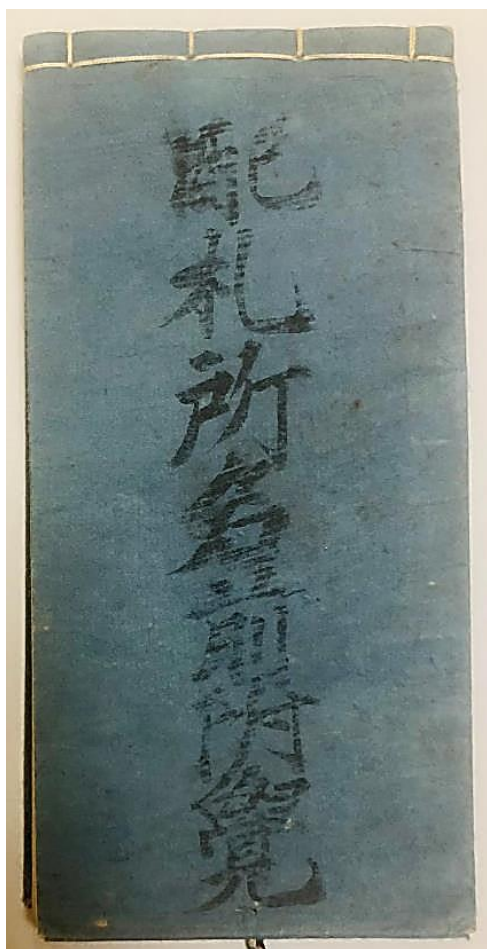


名古屋城天守閣を木造復元し、旧町名を復活する有志の会 第131回例会 於 料亭薦茂 20230722 (土) 18:00～

絵図と古文書で読み解く名古屋の史的一断面 ～ヨソモノ宗教者から見た城下町の姿～



本講演のねらい

「名古屋城天守閣を木造復元し、旧町名を復活する有志の会」という貴会名を参考に旧町名を正しく認識し、保存・継承することの意義について、私が名古屋に来てから行っている小研究に引きつけて考えてみたい。

①便利だといって旧名は安易に変えないほうがいい。利便性と伝統性
とはいえ、時代的ニーズも必要☞熱田神宮伝馬町駅は好例か？

②城下町名古屋には武士が多く居住するが寺社や町人も多い。
《名古屋城下図》や《分限帳》《藩士名寄》等の歴史資料から多くの尾張藩士の居住地を把握することが可能な一方、町人の居住地を把握することは非常に困難☞新たな史料性格を持つ歴史資料の活用が望まれる。

本講演は名古屋以外に住む宗教者が記録した歴史資料から上記2点の課題解決に迫る試論である！！

伊勢御師と御祓賦帳とは何か？

【伊勢御師】☞全国各地に存在する自己の檀家に伊勢神宮の御祓大麻や土産等を配布（基本的に経営規模の大きい伊勢御師の場合は当主でなく手代が廻檀）することで伊勢信仰を広めた。その際、伊勢参詣を勧誘・斡旋し、伊勢参宮客を伊勢神宮門前町として知られる勢州度会郡宇治山田で営む旅館へ宿泊させることを生業とする宗教者集団で御師は師職の別称も有。現代で言えばコンシェルジュ的旅館業者と、祈祷等を行う伊勢神宮神職とを兼業した総合エージェンシー的職種。彼らと檀家との間には、師檀関係という一種の専属契約が成立し、各地には縄張りである檀家の居住地域（檀那所）が形成。全国の檀家は伊勢御師に伊勢神宮へ武運長久や五穀豊穡等の祈祷や神楽奏上等を依頼し、その報酬として彼らのもとは神楽料や初穂料等の莫大な金品が集積。利益をもたらす師檀関係は、一旦締結をみると余程のことがない限り解消されず。伊勢御師にとって檀家は、生業の死活問題に関わるほどに不動産と同様か、それ以上に重視される家産として認識されており、中世後期には永続性の強い利権として株化（師職株）。基本的には伊勢神宮の内宮（皇大神宮）門前町宇治には内宮御師、外宮（豊受大神宮）門前町山田には外宮御師が居住し、江戸時代は宇治と山田それぞれの御師は宇治会合・山田三方会合なる別個の自治組織によって師職株は厳格に管理され、家格なる階級も存在。また、伊勢神宮の祓宜・権禰宜を兼務する伊勢御師も存在し、その場合、内宮は荒木田姓、外宮は度会姓を有しており、それ以外の姓（橘姓・羽根姓・秦姓等）を有する伊勢御師は異姓家と掌握された。※伊勢御師研究を応用することで国府宮御師等の他の御師も分析可能

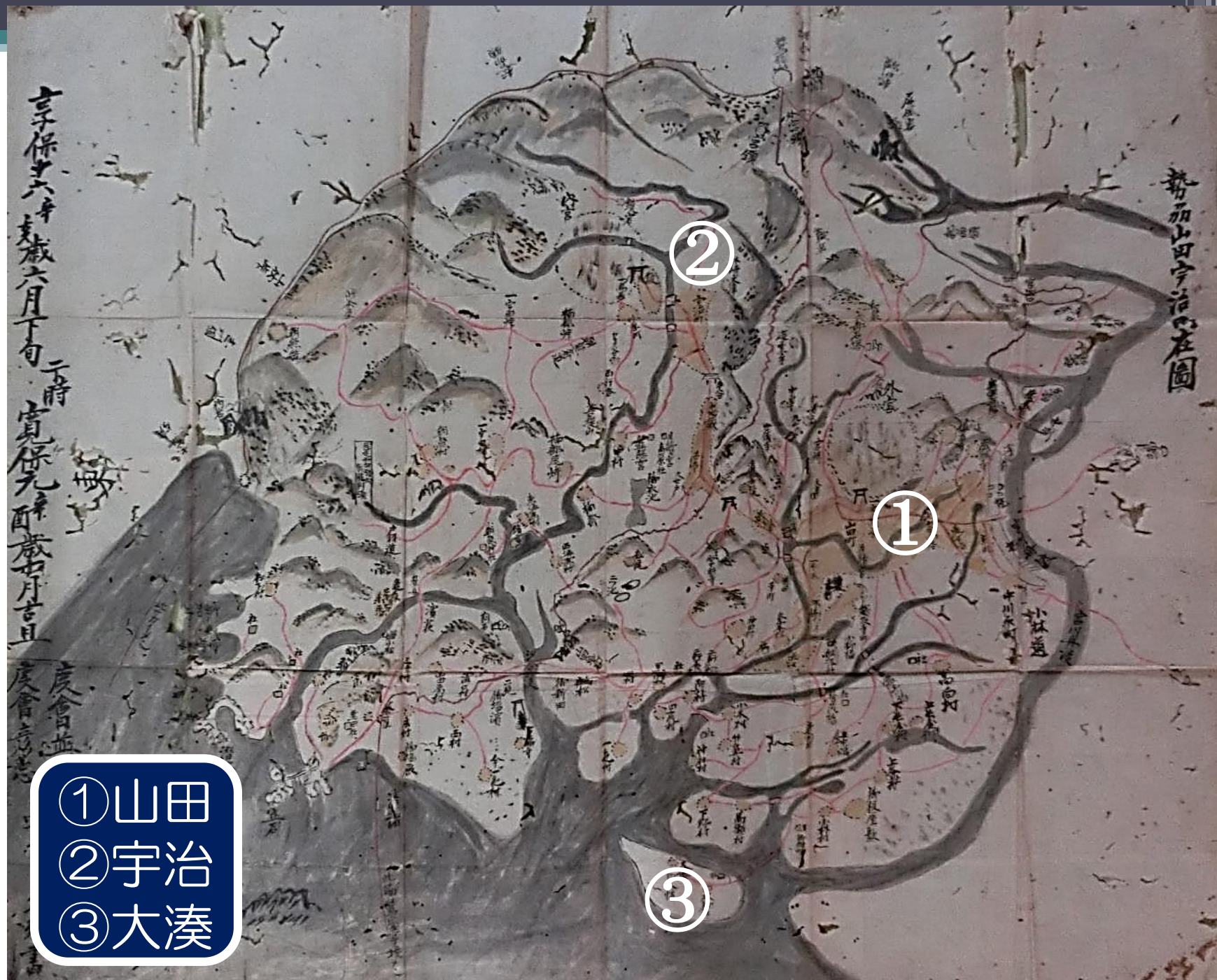
【御祓賦帳】☞そのため、彼らは檀家を把握するために各檀那所の空間を的確に認識していたが、その際、活用された商売道具のひとつが御祓賦帳。伊勢御師はこの冊子に載る専属的顧客の情報をもとに廻檀活動を展開。

尾張名古屋では伊勢御師以外の御師（津島・熱田・国府宮・熊野・富士・多度等）の活動が想定されるが史料的な制約もあり、現状では伊勢御師も含め実は不明瞭。新たな名古屋の都市史料として評価可能か

享保16年
(1731)

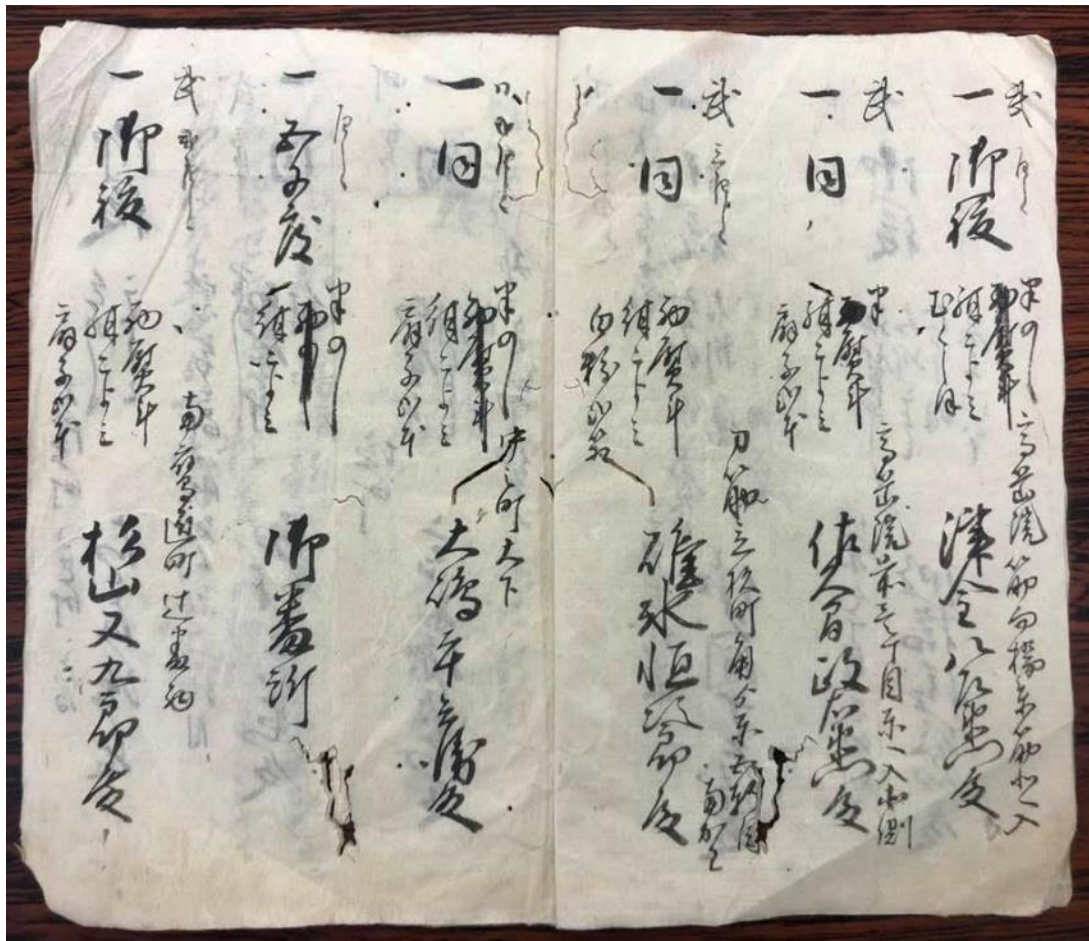
伊勢神宮領
(神領)

※宮川以東



伊勢御師が遺した名古屋情報①

名古屋城下図を使って『尾州名古屋檀家帳』を分析
～伊勢御師沢瀉大夫の檀家構造と空間認識を理解する～



『尾州名古屋檀家帳』の分析視角の一例 ～私ならまずはこんなことを思いつく～

- ①名古屋を主とした尾州における近世伊勢信仰の受容実態（檀家構造）
 - ②沢瀉大夫の系譜や伊勢御師の存在形態⇨沢瀉家等の伊勢関連史料
 - ③檀家の履歴と居住地の特質⇨名古屋城下図・尾張国絵図・士林泝洄
 - ・続士林泝洄続編・藩士名寄・分限帳・寛延旧家集・尾張名所図会
 - ・地籍図・現地の地形と地名
 - ④贈答品（御祓大麻・御初穂料・伊勢土産）からみた地域や身分の構造
 - ⑤居住地表記からみた伊勢御師の空間認識⇨名古屋城下図・藩士名寄等
 - ⑥沢瀉大夫の檀家帳（御祓賦帳）の特徴⇨他の御祓賦帳・参宮人帳
- ★一つの歴史資料から様々な分析視角を考えることができる。
僅か1点の歴史資料があるだけで無限の可能性が生じる。
研究の成果⇨学術論文や図録の執筆・史料展示・博物館教育的活動等

檀家帳（御祓賦帳）はいわば御師の顧客リストである
ため種々の得難い情報が記されている場合が多い

その後の調査で神宮文庫に『沢瀉家旧蔵資料』等が所蔵されていることを確認

★泣き別れというべき直接関連する文書群であるため架蔵品の価値を高めることに⇨1点の歴史資料の意義

明治12年（1879）7月付『旧師職総人名其他取調帳』（宇治今在家町）にみる沢瀉家の主要檀那所

沢瀉家は『旧師職総人名其他取調帳』（宇治今在家町）には、「尾張国 愛知郡ノ内 名古屋ノ内式拾壺ヶ町 近在式ヶ村」のように尾張国をはじめ、全国各地に檀那所（東京・武蔵国・下総国・上総国・岩代国・相模国・常陸国・伊賀国・大和国・摂津国・大坂・丹波国・山城国・西京・近江国・美濃国・伊勢国・紀伊国）を有し、日本各地で配ったお札の数は2万6557体にも及ぶ。数代に亘り内宮権禰宜正六位内人職（風日祈宮）を補任

★寛永11年（1634）には伊勢御師「内宮おもたかや」（『宇治会合文書』）として確認。

宇治居住御師の家格別人数

家格	寛政2年 (1790)	安政2 (1855)	慶応3年 (1867)	備考
神宮家	28	39	32 (Ⓐ 8)	「神宮家」
会合 年寄家	50	58	99 (Ⓑ 49)	「御会 合家」
平師職	209	101	172 (Ⓒ 71)	「町並 分」
絶家	—	104	(* 128)	* Ⓐ ~
合計	287	302	303	Ⓒ 128

※ 寛政2年11月付の『内宮師職家 扣』では沢瀉家は「町並分」として記載（「おもたか大夫」）

天明7年
(1787)
9月時の
沢瀉大夫
の檀家
☞16家+1
機関
19世紀後
半の沢瀉
大夫の総
配札数
26557
【愛知郡
(名古屋
21町+名
古屋以外
2村)】
尾州を檀
那所とす
る内宮御
師☞46名
他に外宮
御師も有

No.	檀家名	住所表記等	備考
1	佐久間十兵衛	高岳院前	「武」 (武士)
2	棚橋清次郎	同 (高岳院前) 壱丁目東西側	「武」 (武士)
3	津金八左衛門	高岳院筋向橋東筋北へ入	「武」 (武士)
4	佐久間政右衛門	高岳院前壱丁目東へ入北側	「武」 (武士)
5	碓氷恒次郎	力筋立杉町角ら東五軒目南かわ	「武」 (武士)
6	大嶋平兵衛	中之町大下	「同 (武)」 (武士)
7	御番所	(大船町?)	※船御番所
8	杉山又九郎	南鷹匠町辻番西	「武」 (武士)
9	右之御隠居	大津町いせ町之間	
10	西村兵右衛門	宗音寺町筋西ら東へ六軒目	(武士) ※相應寺町筋
11	高木孫左衛門	塩町	(町人)
12	庄屋 杢右衛門	愛知郡甚兵衛後新田	「庄屋」 (農民?)
13	丸屋文四郎	本町七丁目	(町人?)
14	井上常庵老		(武士)
15	笠原茂右衛門	堀江町 家主池田屋	「町」 (町人)
16	佐藤市郎右衛門	力筋立杉町角	「武」 (武士)
17	近藤武左衛門	しゅもく町立杉町ら弐軒目	「武」 (武士)

大瀧氏の尾張名古屋への持参品の内訳

熨斗鮑
+
伊勢土産

No.	檀家名	熨斗鮑	伊勢暦	無垢塩	扇子	白粉	箸	干瓢袋入	鯉節
1	佐久間十兵衛	五十作伊勢熨斗	大折暦	○ (1袋)					
2	棚橋清次郎	初熨斗	大折暦	○	○ (2本)				
3	津金八左衛門	半熨斗	紺暦	○					
4	佐久間政右衛門	半熨斗	紺暦		○ (2本)				
5	碓氷恒次郎	初熨斗	紺暦			○ (2箱)			
6	大嶋平兵衛	半熨斗	紺暦		○ (2本)				
7	御番所	半熨斗	紺暦						
8	杉山又九郎	初熨斗	紺暦		○ (2本)				
9	右之御隠居	包熨斗	暦						
10	西村兵右衛門	半熨斗	紺暦						
11	高木孫左衛門	初熨斗	紺暦				○	○	
12	庄屋 杢右衛門		大折暦						中節 (1連)
13	丸屋文四郎	包熨斗	暦						
14	井上常庵老	包熨斗	紺暦				○		
15	笠原茂右衛門	初熨斗	大折暦						
16	佐藤市郎右衛門	初熨斗 (2把)	大折暦						
17	近藤武左衛門	初熨斗	紺暦		○ (2本)				

No.	檀家名	初穂料等	享保6年 (1721)	元文2年 (1737)	明和3年 (1766)	身分	備考
1	佐久間十兵衛	金100疋 +中進上鳥子包	◎	◎	◎	武	「渡辺飛騨守様御与力」「此度始而参候祝儀一品可遣候扇子三本入罷可有候」（享保6年）
2	棚橋清次郎	300文	◎	○	○	武	「高岳院佐久間重兵衛様近所」（享保6年）
3	津金八左衛門	100文	◎	◎	◎	武	「高岳院東番所前角」（享保6年）
4	佐久間政右衛門		◎	◎	◎	武	「佐久間十兵衛殿二て頼」（享保6年）
5	碓氷恒次郎	300文	○	○	○	武	
6	大嶋平兵衛	200文	○	○	○	武	
7	御番所	100文		◎	◎		「大船町 船御番所」（元文2年）。享保5年に配札有
8	杉山又九郎	200文	○	○	○	武	
9	右之御隠居	100文		○	○		
10	西村兵右衛門	100文	○	○	◎	武	「相応寺町筋」
11	高木孫左衛門	200文	◎	◎	◎	町	甚兵衛後新田関連事項を全て担当
12	庄屋 杵右衛門	2朱+411文			◎	（農？）	「熱田新田三拾壹番割 御庄屋」（明和3年）
13	丸屋文四郎	48文			○	（町？）	
14	井上常庵老	100文			◎	（武）	「同（武）」（明和3年）
15	笠原茂右衛門	200文			◎	町	
16	佐藤市郎右衛門	500文		○		武	
17	近藤武左衛門	忌中				武	喪中の為初穂料等の神納は無し
計17 （16名+1 機関）		計 金2朱+銭3859文 +中進上鳥子包	計 27	計 21	計 18	享保6年から明和3年までで天明7年時と無関係の檀家の詳細は省略。 ◎⇨同姓同名表記 ○⇨同姓表記	

武家地における沢瀉大夫家の配札ルート等の部分的復元 I

①佐久間十兵衛⇨高岳院前

☆御祓（中進上鳥子包）+伊勢土産（50作り伊勢熨斗・大折暦・無垢塩1袋）

②棚橋清次郎⇨高岳院前老丁目東へ入西側

☆御祓+伊勢土産（初熨斗・大折暦・無垢塩・扇子2本）

③津金八左衛門⇨高岳院筋向橋東筋北へ入

☆御祓+伊勢土産（半熨斗・紺暦・無垢塩）

④佐久間政右衛門⇨高岳院前老丁目東へ入北側

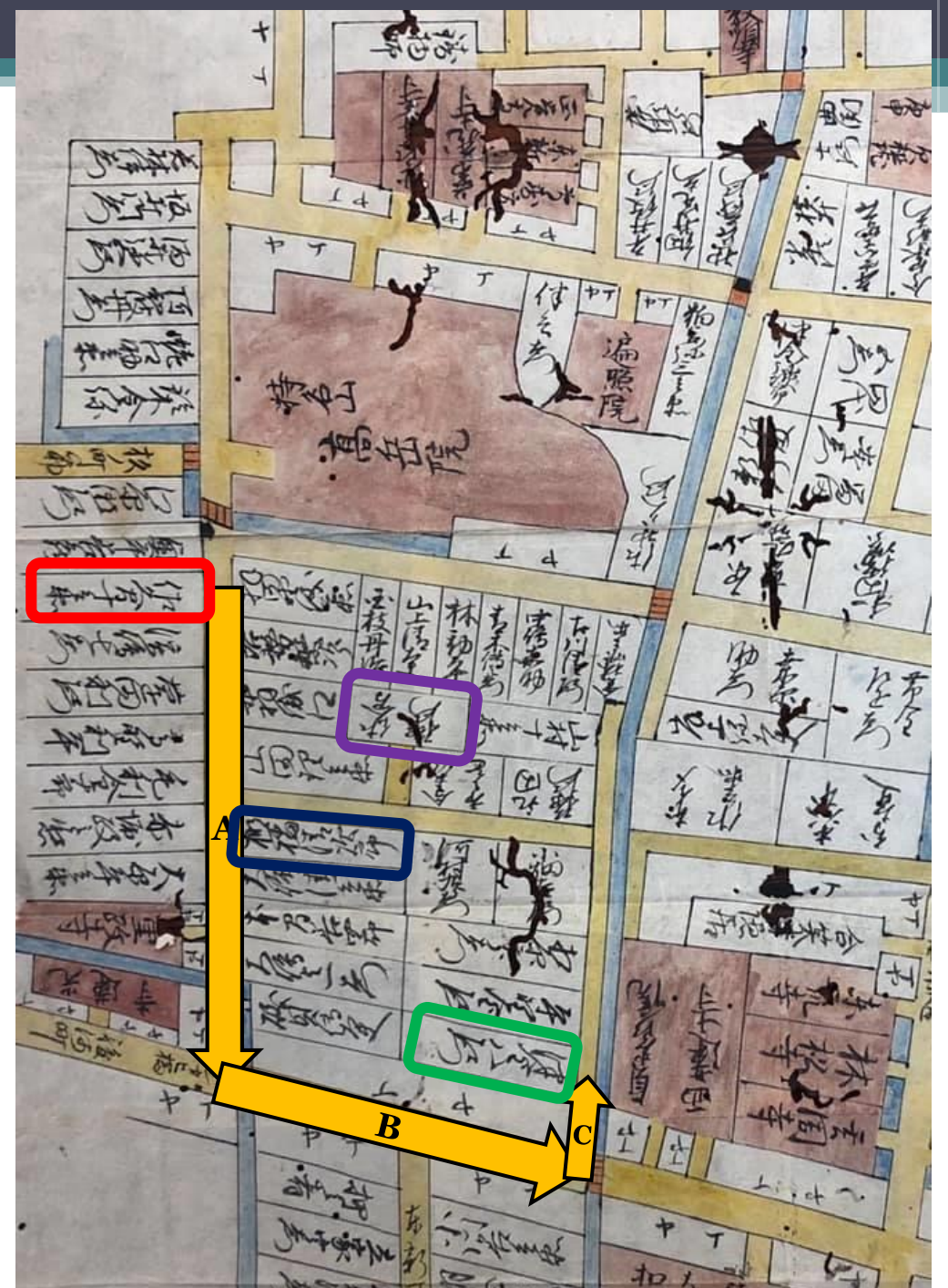
☆御祓+伊勢土産（半熨斗・紺暦・扇子2本）

★冊子の記載順からすると当該地域において
沢瀉大夫の配札ルートは①→②→③→④か？

※①から③への配札の際、A→B→Cの経路を

利用したのはほぼ確実。④への進行ルートは2方向か？

高岳院と主要道路以外はほとんど痕跡は現存せず



武家地における沢瀉大夫家の配札ルート等の部分的復元Ⅱ

①碓氷恒次郎☞主税筋立杉町角より東五軒目南側

☆御祓+伊勢土産（初熨斗・紺曆・白粉2箱）

②佐藤市郎右衛門☞主税筋立杉町角

☆御祓+伊勢土産（初熨斗2把・大折曆）

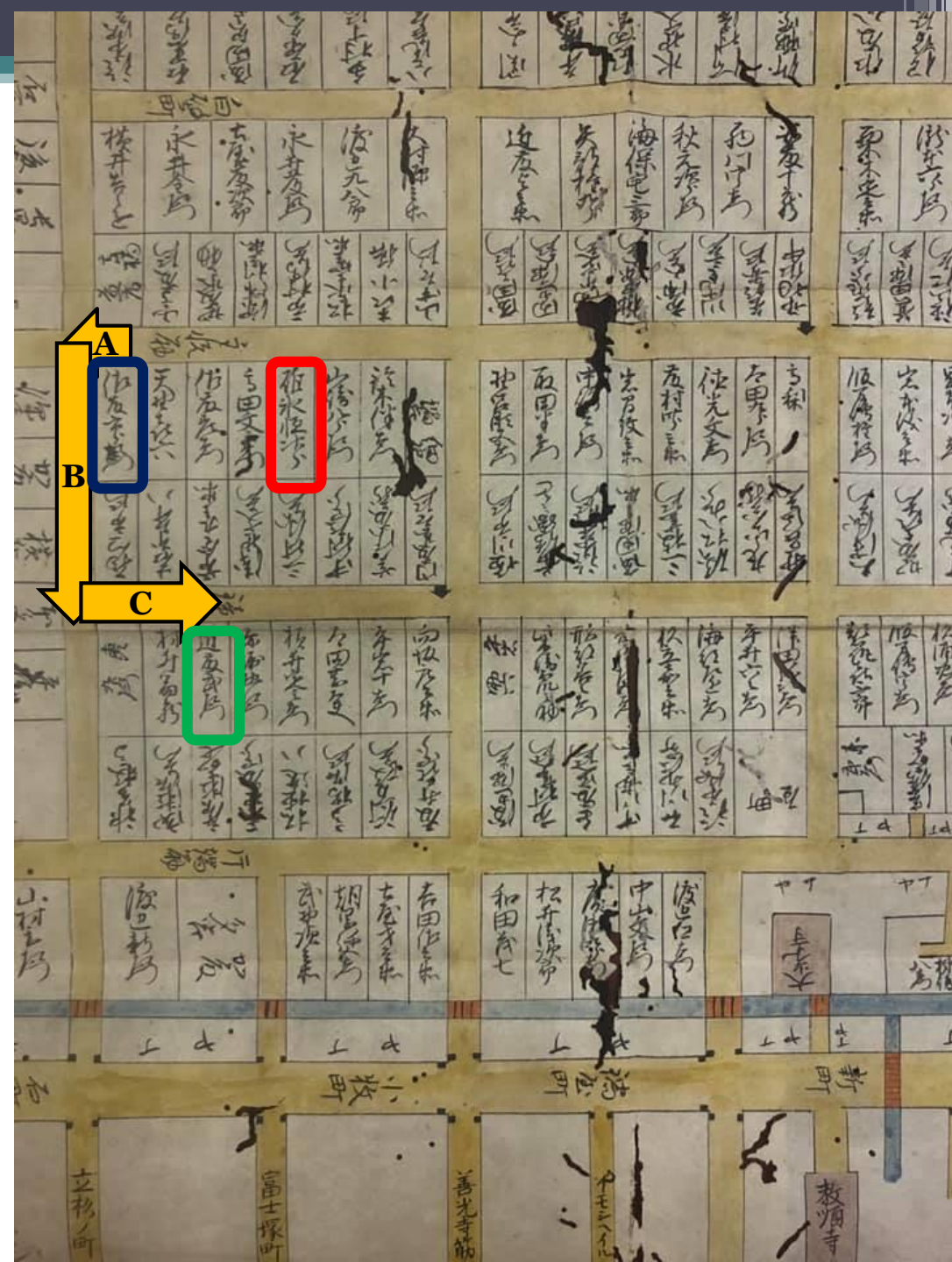
③近藤武左衛門☞槿木筋立杉町より2軒目

※伊勢御師は表門により空間を認識か？

☆御祓+伊勢土産（初熨斗・紺曆・扇子2本）

★冊子の記載順からすると当該地域において
沢瀉大夫の配札ルートは（①→）②→③か？

※②から③への配札の際、A→B→Cの経路
を利用したのはほぼ確実か。現地散策可



「尾州名古屋檀家帳」の住所表記について

★尾張藩士の分は「分限帳」や「藩士名寄」が情報源か？

天明7年「尾州名古屋檀家帳」

文化14年「尾張藩分限帳」 ※天保14年高井弥三郎書写

檀家名

住所表記等

藩士名

住所表記等

備考

佐久間
十兵衛

高岳院前

佐久間
十兵衛

高岳院前辻番
南へ三軒目西かわ

「高三百石」

棚橋清次郎

同（高岳院前）
壱丁目東西側

棚橋
三左衛門

高岳院丁町南筋角
東へ取付

「高百五十石」

津金
八左衛門

高岳院筋向橋東筋北へ入

津金
只左衛門

高岳院東新道駿河町
二軒目

只は八の誤記か？
「御扶持拾人分」

佐久間
政右衛門

高岳院前壱丁目
東へ入北側

佐久間
次郎九郎

高岳院前南横町西
東へ取付北側

「高百五十石」

碓氷恒次郎

力筋立杉町角
東五軒目南かわ

碓氷
清左衛門

主税筋杉ノ町
東へ五軒目南側

「高百五十石」

杉山又九郎

南鷹匠町辻番西

杉山慶蔵

南鷹匠町北西角

「高二百石」

西村
兵右衛門

宗音寺町筋西
東へ六軒目

西村
兵右衛門

居宅屋敷之内西
七軒目北側

「高百石」

近藤
武左衛門

しゅもく町立杉町
弐軒目

近藤
武左衛門

鐘木町杉町
東へ二軒目南側

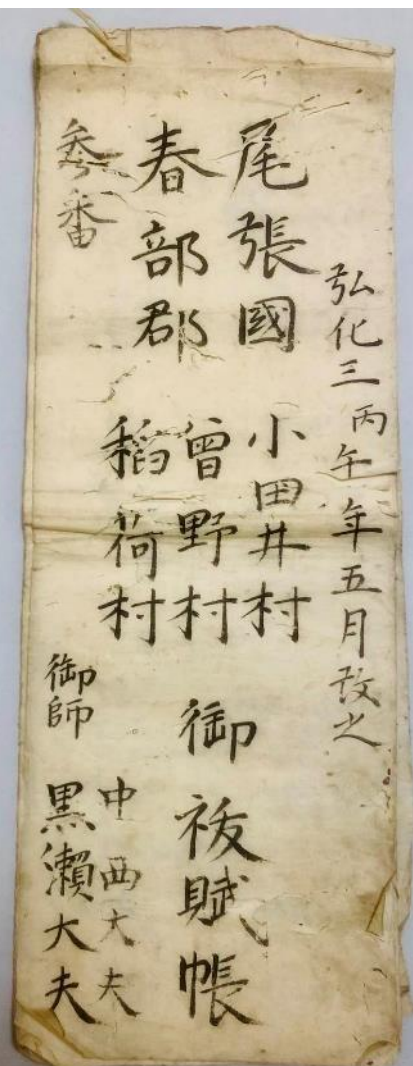
「高四百石」

『尾州名古屋檀家帳』以外の沢瀉家の尾州における主な檀那所と特徴的な檀那
※神宮文庫蔵『沢瀉家旧蔵資料』等による

明治3年（1870）の内宮式年遷宮費の寄付者リスト『尾州濃州江州御檀家御遷宮勸化性名帳』の尾州分によると、名古屋の寄付者（名古屋分）の他、名古屋近郊各所（西尾村中・白山村中・桜木村・押切町）の寄付者も。19世紀代の御祓賦帳『尾州名古屋』でも檀那所としての名古屋の檀家の他、名古屋近郊各所を検出（巾下押切・押切桜木村・尾州春日井郡白山村・神戸宮新田・西尾村・犬山御城下・方領村）。享保6年（1721）の『桑名 名護屋 御旦那帳』には熱田社社家と思われる「菊田久大夫」なる檀家や贈答品としての扇子は名古屋で仕入れた旨（「一 相箱扇子式本入 八箱 一 三本入 壺箱 此扇子名古屋二而調也」「名古屋本町四丁目 住吉屋善右衛門殿 但シあふきや也 同用人庄七」）等の記載。寛政11年（1799）9月の『名古屋御檀方帳』では「岡宝徳大夫本家 沢瀉大夫」の檀家として「状式百文 一 中進上 半のし 上ーは はし 正五九月祓 本町七丁目 本屋 沢吉兵衛殿」「一 同——同御店」と名古屋書林沢吉兵衛が檀家として確認
→伊勢御師の城下町名古屋における有力檀家としての書林の存在【沢吉兵衛（沢瀉家）・風月屋孫助（岩井田家）・永楽屋東四郎（内山家）】

弘化3年5月付の伊勢御師中西大夫の尾張名古屋の御祓賦帳 (『名古屋御家中町方御祓賦帳』・『尾張国春部郡御祓賦帳』)

架蔵の御祓賦帳2冊から弘化3年(1846)時の御師中西大夫の名古屋と小田井村等の主要檀家が判明。中西大夫家は黒瀬大夫から黒瀬大夫銘を獲得、そのままの御祓銘で配札。文政7年(1824)5月付『山田師職銘帳』(神宮文庫蔵)の上中之郷町居住の御師(年寄家)「中西左衛門」に「筋向橋中西大夫 中西大夫両銘二而一株」「黒瀬大夫 銘譲 宮後三頭大夫 同 此両銘宮後西川原町黒瀬図書に譲受候旨戌十一月申出ル」と注記。また、文政11年5月付『山田師職銘帳』の中西左衛門の箇所には「左衛門義病死致倅伯耆家銘相続致候段子極月町に届出ル」「伯耆義此度他家へ相続二罷越候二付弟弘之助家銘相続致し中西弘之介と相名乗候段丑四月申出ル」「弘之助義此度佐渡と改名之旨八月十一日上中之郷町に届出ル」の注記と中西左衛門の「左衛門」の箇所が「/伯耆」「/弘之助」「佐渡」と修正。中西家の相続問題の痕跡。さらに弘化3年(1846)前後で現存する『山田師職銘帳』は天保10年(1839)5月分と嘉永元年(1848)5月分の2冊が該当するが、前者の台帳に載る中西姓の御師は計18家、後者に載る中西姓の御師は計17家のうちで「黒瀬大夫」銘株の記載があるのは上中之郷の中西佐渡家のみ。架蔵品は中西佐渡家旧蔵の御祓賦帳(本来28冊)と判断。上中之郷町の中西佐渡家は文政9年に宮後西川原町の黒瀬図書家より黒瀬大夫銘株を譲渡。中西家は同年に架蔵品に記された尾州の檀家を獲得し、尾州は有力な檀所としての位置づけに?。名古屋城下では尾張藩重臣〔生駒家及び同家役人(林・神野・三輪・奥田・岡本)・津田家〕や万松寺などの有力寺院、また熱田宿東本陣森田八郎右衛門などの有力町人などが注目。さらに名古屋郊外的美濃路地域では庄屋や有力商人(問屋)などの存在が注目。



生駒因幡家についての諸情報 と 万松寺の万度祓の不受



御初穂米五石

万度台 三之丸大手角 鐙次郎殿

一島のし六十作 ①生駒因幡守殿

鯉節五連

素麺一箱

青苔五把袋入

金虎曆外二鳥子「」吉田四郎左衛門殿

相三本入扇 カコマチ伊藤久兵衛殿

布苔一畳 「」下ヤシキ 林昇兵衛殿

鯉扣 壺曲 ツユハシ村 岡本清兵衛殿

直状 長嶋町六丁目 林六左衛門殿

頼状 上畠筋江川畑「」入口

目録 三輪右衛門殿

式尺五寸台二枚 右役人中江差届口節

御祓進上之節役人中音物左之通 干瓢壺把ツ、遣候事

上紺 五 曆者何れも七月継守候

弁紺 三十把 鯉扣壺入 十

すゝ 十四 曲結 三

万金丹⑥十八服

但し九ふくツ、式包

青苔五わ入一袋 御初穂米受取二

三把入三袋 遣ス節上紺三ふく

式わ入十三 為持遣ス事

御門番所へ

万金丹式ふく

弁たん 壺

二

嘉永四年辛亥年十一月、御祓相認候義断

万度

鳥子 橘町

一青苔五把入 ①万松寺

相式本入扇

川上茶一袋

干瓢一わ

布のり一枚

直状

目録

①生駒因幡守の貼紙（①以外の貼紙は省略）

貼紙①「辰年、代替り（生駒）鐙次郎殿」

貼紙②「未年御名替（生駒）大炊殿」

貼紙③「酉年御改名生駒頼母殿」

②代表的な伊勢土産の（野間）万金丹

③嘉永四年十一月より万松寺は万度祓不受

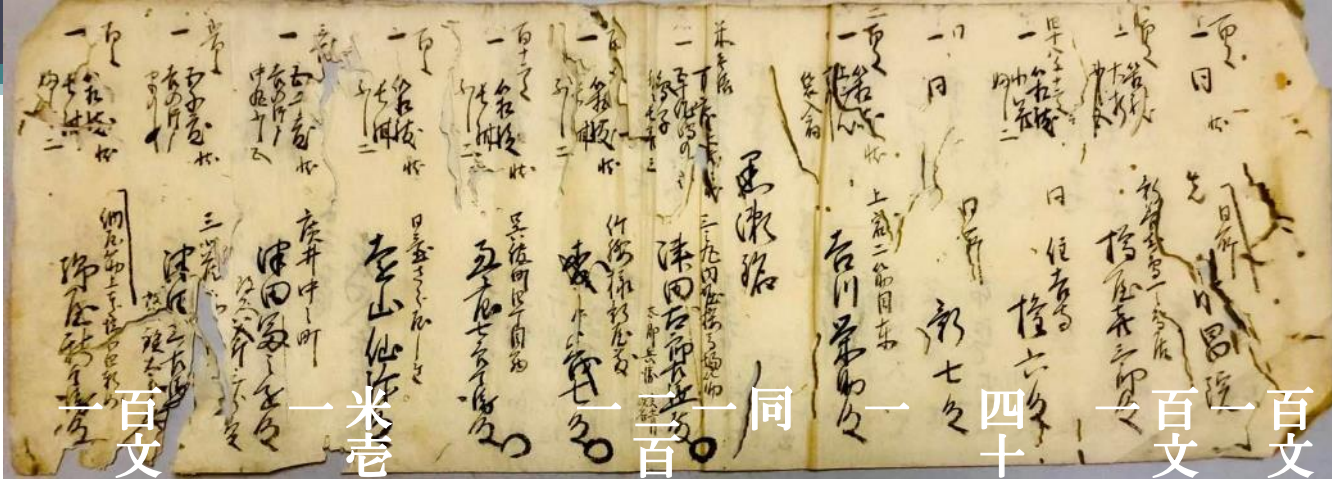
勝手役人へ

上紺 壺幅

扇子 一对袋入

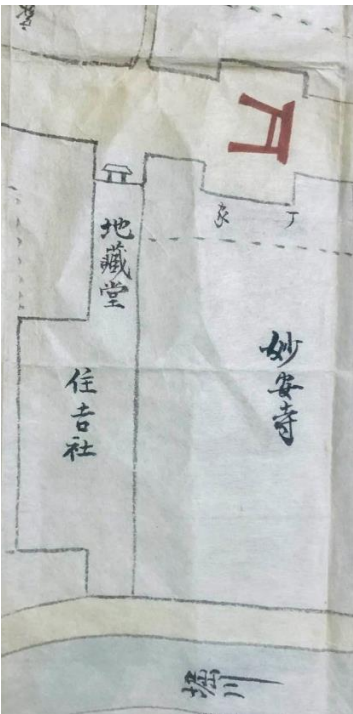
代官

中西大夫銘と黒瀬大夫銘での配札活動

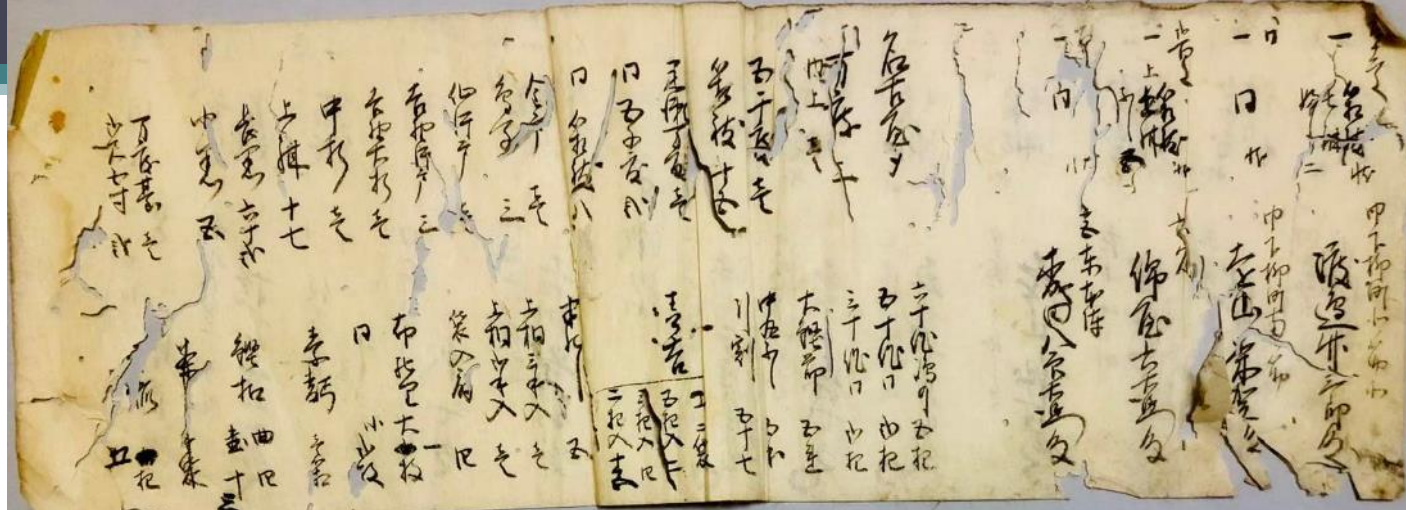


百文	同	状	先	同所
百文	箱祓	新善前鳥一之鳥居	永昌院	
百文	大折	樽屋喜三郎殿		
百文	ふし五			
四十八匁十二文	箱祓	④同住吉寺		
箱祓	小弁	権六殿		
ふし二				
同	同所			
箱祓	新七殿			
上こん	上宿二筋目東			
半のし	吉川栄助殿			
袋入扇				
黒瀬銘				
米老俵	万度大奉直状	三之丸堀桜馬場筋		
鳥子	五十作嶋のし式	津田太郎左衛門殿○		
外二長弁三	⑤太郎兵衛	亥十一月改名		
箱祓	竹腰様新屋敷			
長紺	森下茂七殿○			
ふし二				
百二十文箱祓	呉服町四丁目西			
長紺	豊屋七郎兵衛殿○			
箱祓	日置さらやしき			
長紺	遠山仙弥殿			
ふし二				
三百文	五千度	広井中之町		
吉の片戸	津田富之進殿			
中丸ふし五	改名斧三郎殿			
五千度	三ツ蔵筋下			
吉の片戸	津田三左衛門殿			
半のし	改名鉄太郎殿			
箱祓	綿屋新兵衛殿			
長紺				
ふし二				
百文				

④「同（新善前鳥一之鳥居）住吉寺」
神前・一之鳥居・住吉社・地藏堂
⑤ 嘉永4年11月に津田太郎兵衛と改名



熱田の有力檀家 宮宿東本陣森田八郎右衛門家 と 伊勢御師が配布した伊勢土産



百二十文	箱被	巾下柳町北ノ筋北
一	長紺	渡辺竹三郎殿
一	ふし二	
同	状	巾下柳町南筋
一	同	遠山栄賀殿
式百文	箱被	六久
一	上長紺	綿屋六右衛門殿
一	ふし五ツ	
百〇	状	
一同	状	
名古屋		
万度	二	
同上	二	
五千度	二	
箱被	十五	
黒瀬万度	二	
同五千度	二	
同箱被	八	
金戸	三	
鳥子	三	
仙片戸	三	
吉野片戸	三	
吉野大折	三	
中折	三	
上紺	十七	
長黒	六十	
中黒	五	
万度台	五	
式尺五寸	二	
宮東本陣		
森田八郎右衛門殿		
六十作嶋のし	五把	
五十作同	二把	
三十作同	二把	
大鯉節	五連	
中丸ふし	五本	
引割	五十七	
青苔	二袋	
半のし	二把入	
上相三本入	五	
上相式本入	四	
袋入扇	四	
布のり	大一枚	
同	小式枚	
素麺	壺箱	
鯉扣	曲四	
茶	壺袋	
干瓢	五把	

①熱田白本陣の森田八郎右衛門

②「嶋」(志摩)を冠した熨斗鮑

③黒瀬大夫銘の御祓大麻(万度祓・五千度祓・箱祓)

参考 尾州の村方の檀家 淡泊な記載

『尾張国 海西郡 竹田新田 全』（神宮文庫蔵『古森大夫引受諸国御檀家御祓賦帳』）にみる天保14年（1843）時点の竹田新田（現弥富市）を軸とした尾州海西郡における伊勢御師古森大夫の檀家構造 ※「文政十丁亥年四月十六日大田伊右衛門殿御参宮被成一宿有之御旦所村方御名前相改 御祓配り方并土産等其節相改右之通りに御座候事」「天保十四季癸卯九月改之古森大夫」

住所表記	人名	箱御祓	劔先	上紺	小弁	巻	御田扇	鐙節	干魚	書状	備考
	大田伊右衛門	1		1			2	5			庄屋。住所は竹田新田か
	源兵衛	1		1				2			住所は竹田新田か
	甚平	1			1				7		住所は竹田新田か
	金兵衛	1			1				7		住所は竹田新田か
	平左衛門	1			1				7		住所は竹田新田か
	治兵衛	1			1				7		住所は竹田新田か
	重蔵		1			1			5		住所は竹田新田か。伊勢田所有か
	吉兵衛		1			1			5		住所は竹田新田か。伊勢田所有か
	平四郎		1			1			5		住所は竹田新田か。伊勢田所有か
	森助		1			1			5		住所は竹田新田か
	覚左衛門	1			1				7		住所は竹田新田か
	清九郎		1			1			5		住所は竹田新田か
	藤蔵		1			1			5		住所は竹田新田か
	仲右衛門	1			1				7		住所は竹田新田か
竹田村	要蔵		1			1			5		
同村	忠三郎	1			1				7		
同村	吉右衛門	1			1				7		
同村	栄左衛門	1			1				7		
同村	庄右衛門	1			1				7	1	
同村	九郎右衛門		1			1			5		
同村	観音堂	1			1						
同村	庄吉		1			1			5		
同村	与八		1			1			5		
同村	豊四郎	1			1				7		
同村ミふく新田	平吉	1			1				7		
東蜆村	紋四郎	1			1				7	1	
同村	卯八		1			1			5		
同村	元蔵		1			1			5		
同村	清助		1			1			5		
亀ヶ地村	孫八		1			1			5		
馬ヶ地村	又兵衛	1			1				7		
同村	重兵衛	1			1				7		
同村西へ入江	又右衛門	1			1				7		
同村	周右衛門	1			1				7		
飛嶋新田也	周吉	1			1				7		「但し周右衛門殿江頼△事」
馬ヶ地村西へ入江	忠蔵		1			1			5		
同村宮東	作右衛門		1			1			5		
同村	勘右衛門		1			1			5		
鮫ヶ地新田酒や	宗十郎		1			1			5		
合計（38名）		21	18	2	19	18	2	7	216	2	集計上
土産物仕込之覚		21合	18	2幅	19幅	18幅	2本	7本	230	3通	劔先祓の項に「外二度分三拾五体」と万度御祓35体が別途

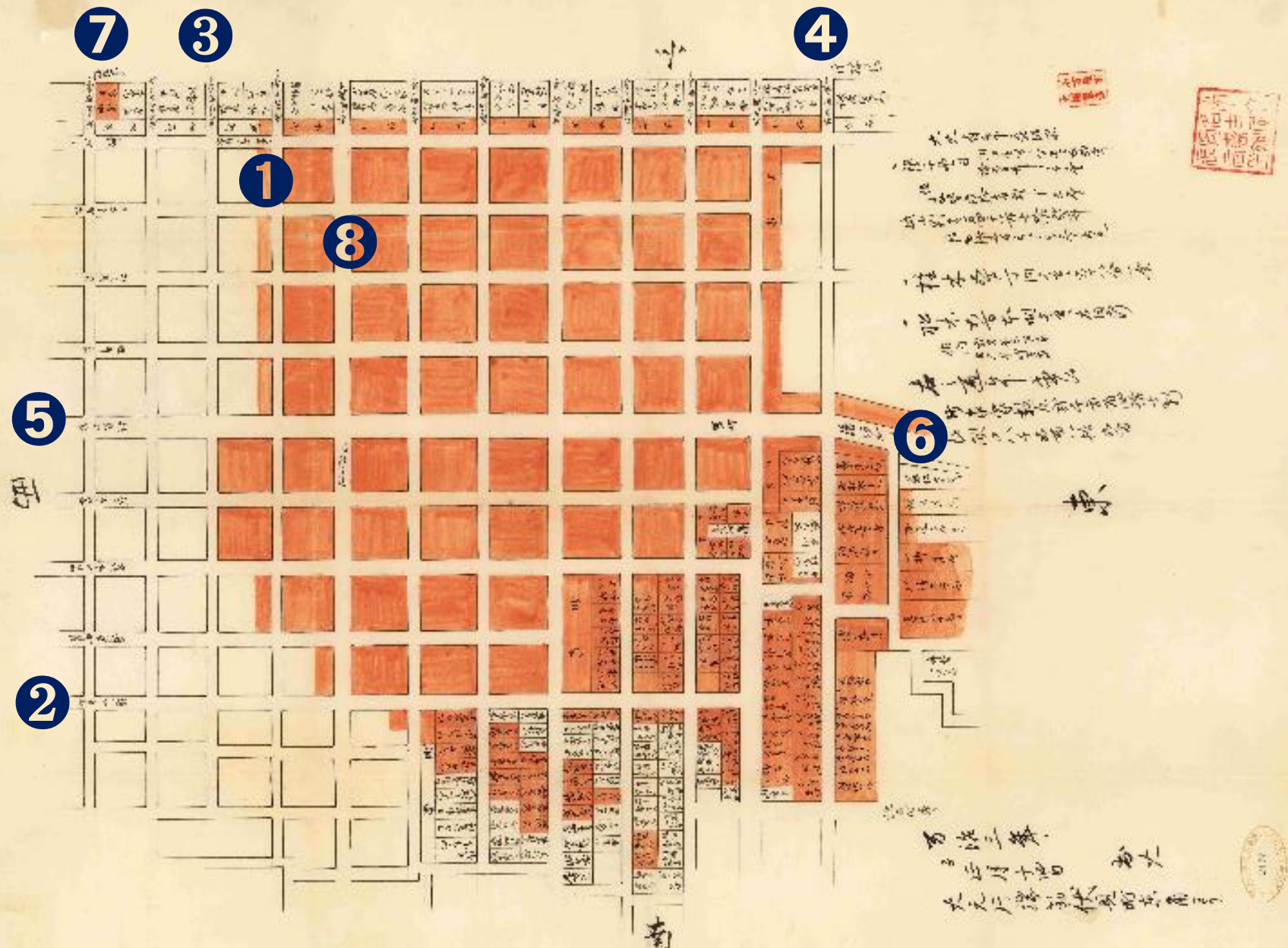
外宮祢宜桧垣家が記した名古屋「万治の大火」の情報

『神宮引附 一（万治三庚子年正月ヨリ日次記）』（神宮文庫蔵）万治三年（1660）正月十四日条
一 同十四日名古屋焼亡北京町南堀切迄是も下人焼入候も有之西八長嶋町と東八部兵衛
殿町うら迄焼伝馬町通者するか町辻井之前迄火本八伏見町上二而吉原助大夫殿と火
出二番本町二丁め花井七左衛門書院と燃上り十四日之ハツ時分十五日切二焼申候
右町家焼失 貳千貳百廿八軒
会所屋敷 三十三ヶ所
右之内四百卅貳軒奉公人御直之衆并又者侍屋敷百十三軒
病人不歩行者座頭幼少老人以上十六人焼死男八人女八人

『愛知県災害誌』を典拠とする「万治の大火」の情報とほぼ一致
☞ 『神宮引附 一（万治三庚子年正月ヨリ日次記）』は同時代史料であるので勢州山田での伝聞情報とはいえ信憑性高いか？

外宮祢宜桧垣家が 知り得た名古屋 「万治の大火」 情報の空間化

- ❶北：京町筋
- ❷南：堀切筋
- ❸西：長嶋町通り
- ❹東：武平町通り
- ❺伝馬町筋
- ❻駿河町
- ❼伏見町通り（此所
火元 吉原助大夫）
- ❽本町二丁目（花井
七左衛門書院）



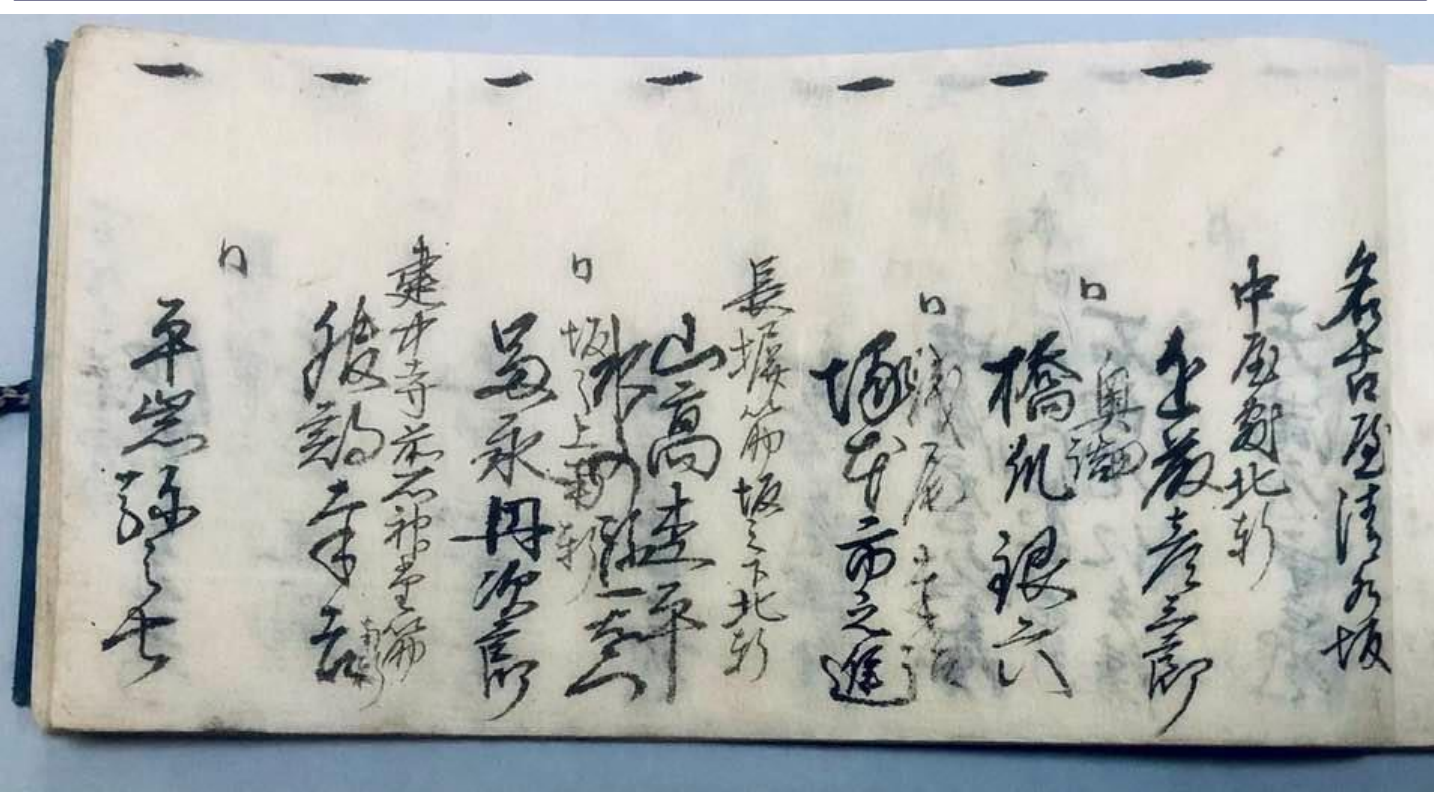
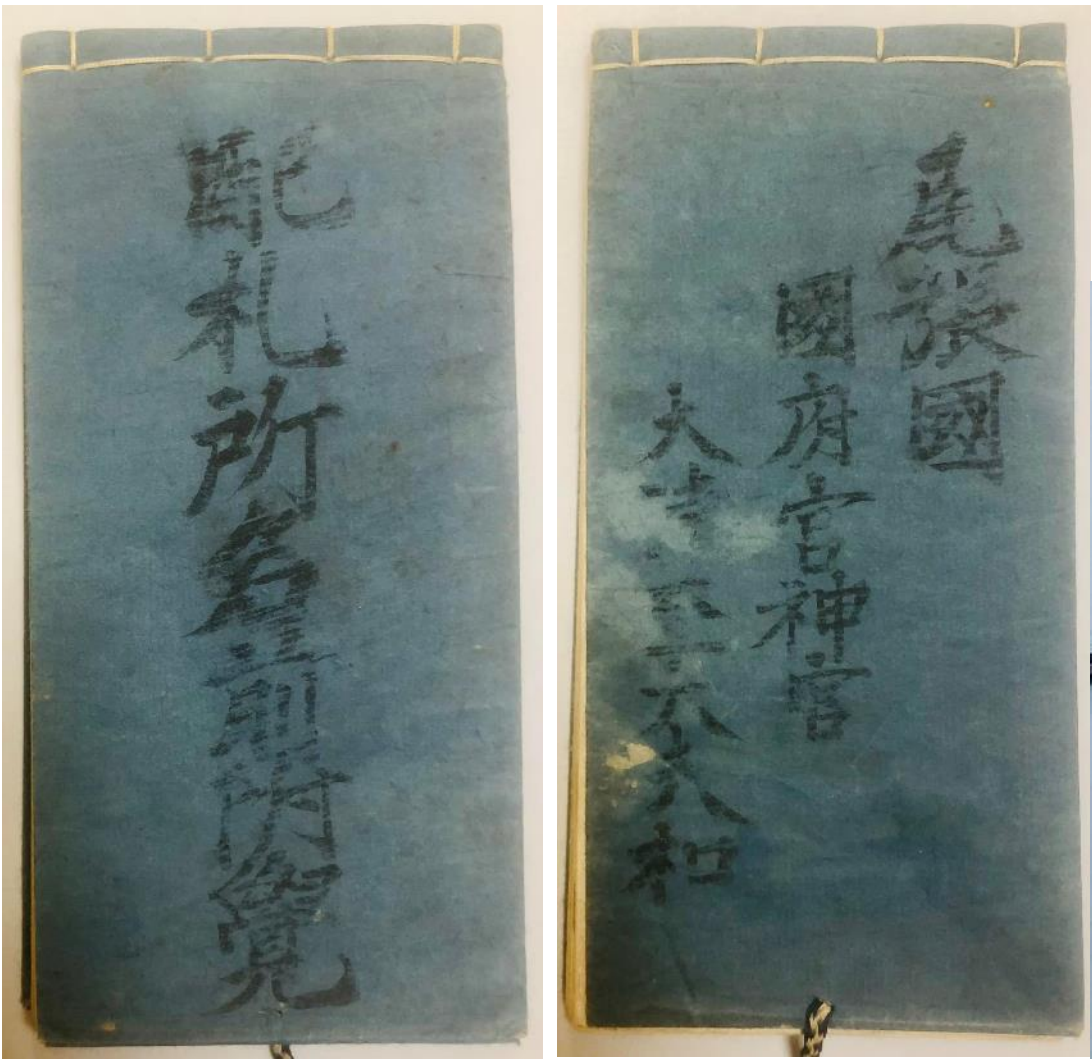
外宮祢宜桧垣家が「万治の大火」を記録した理由

元禄13年（1700）5月吉日付の『尾州御檀那御祓大麻賦帳』（神宮文庫蔵「内山正命文書」）の存在から同時点での外宮祢宜桧垣常和の檀那所としての尾州の様相が判明。主だった檀那所を記載順通りに抜き出すと、**計45地域（愛知郡露橋村・五女子村・二女子村・四女子村・永郎村・北一色村・米野村・春日井郡守山村・大永寺村・愛知郡上社村・藤森村・中田村・一色村・下社村・高針村・愛知郡傍土本村・祐福寺村・和合村・中嶋郡清洲・上日下部村・稲葉町・西牧村・分地村・祢宜屋村・蓮花寺村・落合村・宮重村・丹羽郡五日市場・春日井郡山之腰村・宇福寺村・石橋村・西之保村・丹羽郡伝法寺村・北嶋村・中嶋郡花池村・宮之地村・日久井村・葉栗郡福塚村・大日比野村・丹羽郡高尾村・勝佐多村（西之方・東ノ方）・山尻村・和田村・春日井郡上大気村・同村下之分）**を検出可能。同冊子には「外宮長官常和 代官 植村彦兵衛」とあることから桧垣家の尾州での廻檀活動は「代官」（手代）を活用し展開。元禄16年（1703）7月11日付「永代売渡シ申御道者之事」（内山正命文書）によると、「桧垣九神主貞徳」は「小判四百拾四両八匁壹分三厘」にて「**尾州御道者村数合五拾五力村家数合貳千貳百拾七軒**」を山田下中之郷の伊勢御師内山文大夫に売却

★伊勢御師的活動を行う桧垣家は尾州の村方に檀那（元禄16年時は55箇村計2217軒）を有していた関係で必要な情報か？👉名古屋等の町方の檀家も所持したか？

国府宮に御師がいた①
大津杵大夫家

明治3年（1870）頃の大津杵大夫家の檀家が記された『配札所名前附覚』から国府宮御師の存在形態を考える。※冊子裏表紙に「尾張国 国府宮神官 大津杵大夫扣」と墨書



幕末維新时期における大津全大夫家の尾州での主要檀那所

井之口村・春日井郡上末村・大草村・下原村・大泉司村・上野村・神明村・庄名村・松本村・出川村・久木村・下市場村・下原新田東の村・御供所村・長桜村・宗雲新田・大屋敷村・余野村・尾崎村・塩尻村・重吉村・北三ツ井村・三ツ井村西切・九日市場村・鍛々一色村・宇福司村・熊之庄村・九之坪村・味鋤原新田・櫻木村（・園村・羽根村稻荷切共）★以上が明治3年（1870）頃までにおける大津全大夫家の名古屋の町方以外の尾州の主な檀那所。

主な国府宮の神職身分

①正神主②権神主③中禰

④神子座⑤神楽座

※御師としても存在

大津全大夫の国府宮での身分は享保17年（1732）時に神子座と確認。第4位

国府宮御師大津全大夫家の廻檀活動の特徴
年3回の廻檀（正月・5月・9月）の持参品

正月 劔祓・御守・御供・田作

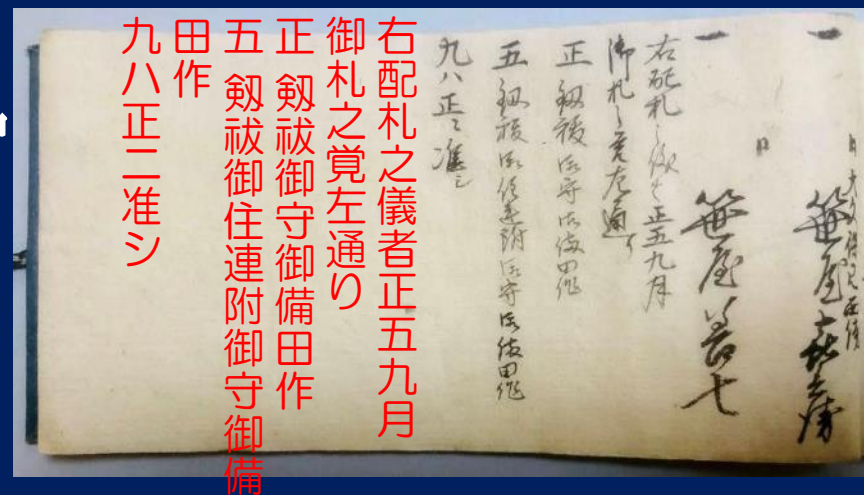
5月 劔祓・御注連附・御守・御供・田作

9月 正月に准ず（劔祓・御守・御供・田作）

★伊勢御師の廻檀活動との比較

①年3回の廻檀⇨伊勢御師は9月のみ多し

②土産：生臭は共通。曆は伊勢御師のみ



大津左大夫家の名古屋の檀家

No.	名前	住所表記等	備考（身分・屋号・職業・住所等）
1	近藤彦三郎	（名古屋清水坂）中屋敷北軒	儒官、志水大坂
2	橋爪銀六	同（中屋敷北軒）	「奥田」、橋爪を橋詰に修正
3	浅尾泰治	同（中屋敷北軒）	元は「塚本市之進」
4	水の弥一右衛門	長堀筋坂之下北軒	武士、元は「山高左平」（武士）、水野氏
5	富永丹次郎	同（長堀筋）坂之上南軒	武士
6	服部泰吉	建中寺前石神堂筋南軒	平岩弥之七の東隣が服部鋤吉、武士？
7	平岩弥之七	同（建中寺前石神堂筋南軒）	武士
8	浅田屋太右衛門	万松寺前西軒	浅田屋、門前町、琴三味線商
9	天満や王助	懸所裏西屋町	天満屋
10	毛利加賀市	同（懸所裏西屋町）	
11	万屋重蔵	同（懸所裏西屋町）	万屋
12	知多屋伊兵衛	同（懸所裏西屋町）	知多屋
13	中嶋屋久兵衛	同（懸所裏西屋町）	中嶋屋
14	石臼屋仁兵衛	本町通門前町西軒	石臼屋、門前町、薬種商（天丸・蒼龍丸）、紙商
15	天満屋重蔵	同（本町通門前町西軒）	天満屋、門前町、鋳金物商
16	笹屋喜兵衛	同（本町通門前町西軒）大久保見西傍	笹屋、鉄砲町二丁目、舶来物仕入所
17	笹屋善七	同（本町通門前町西軒）	笹屋、鉄砲町三丁目、亀甲小間物所、森本氏

大津空大夫家の長屋門と「御師 大津空大夫」等の銘文がある石灯籠



国府宮に御師がいた②
『諸事内記留』にみる
蜂須賀権神主家の近世後期
の尾州における主要檀那所

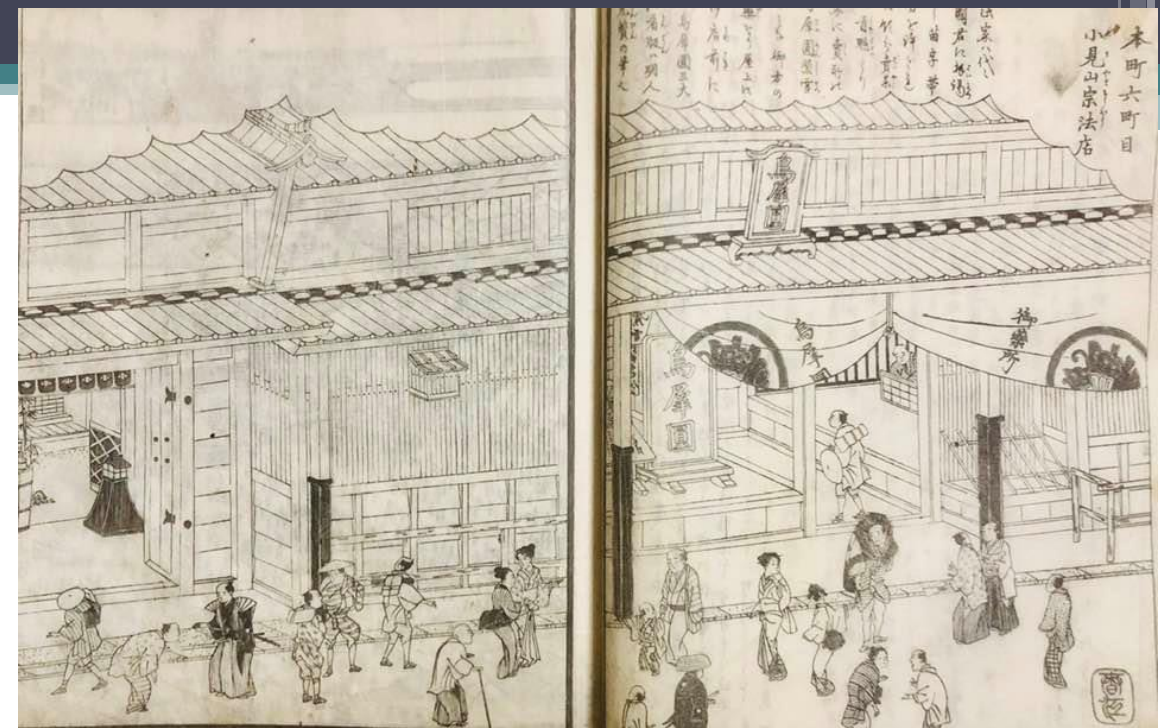
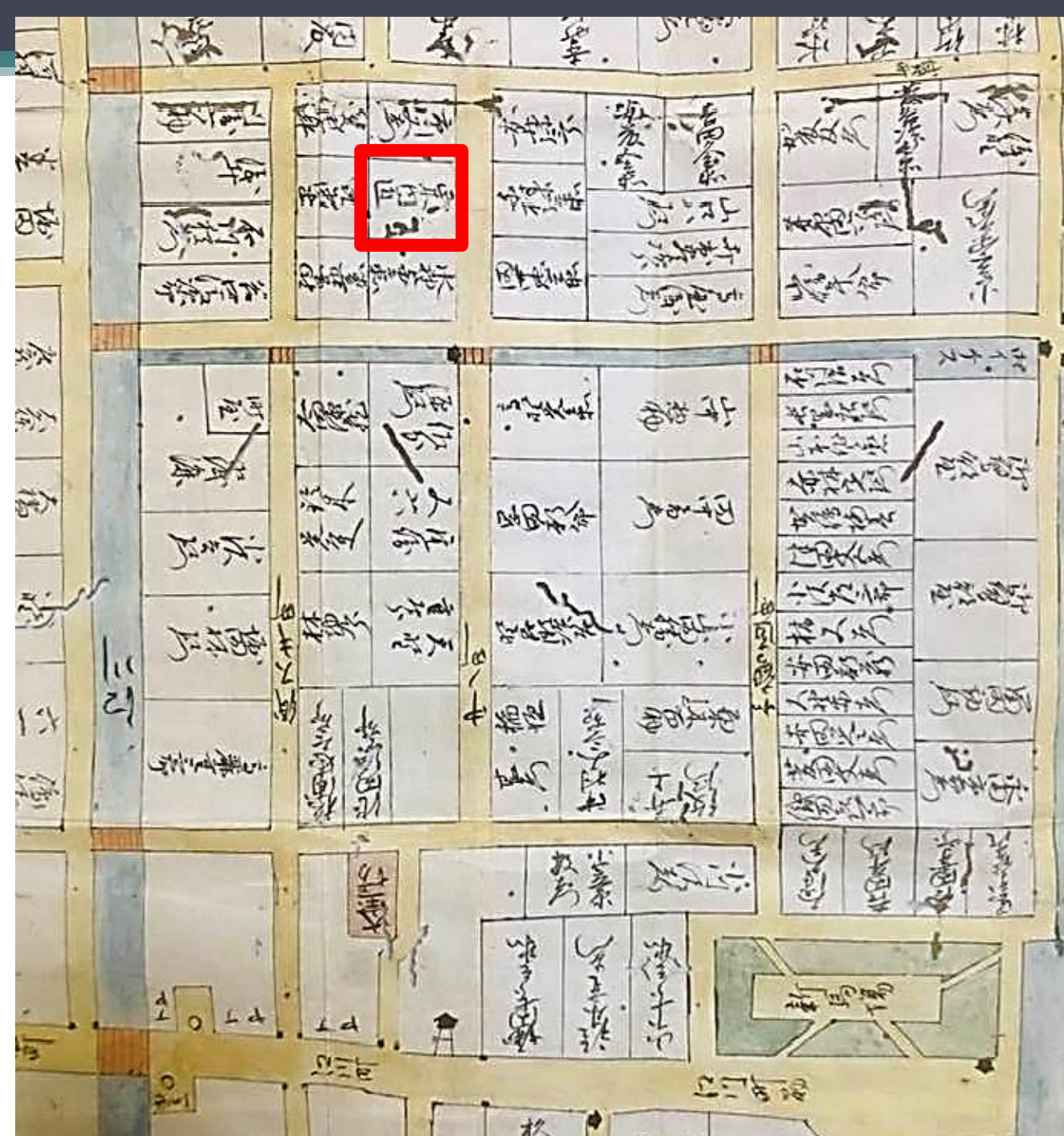
蜂須賀（主水）の国府宮での身分は
享保17年（1732）時に権神主家と確認済
蜂須賀権神主家は神職身分は上から2番目
※『諸事内記留』は『尾張大國霊神社史料』所収史料

松下村・稲葉村・矢合村・馬場村・大塚村四郷・堀之内東西有内・治郎丸村・子生和
村・下津村内・多賀木村・花池村・毛受村・北嶋村・小山村・東三ツ井村稲荷共・清
須宿神明町・清須西市場村并伊勢町・下日下部村・六角堂村并町中・四ツ屋町方・丹
羽郡神戸村・丹羽郡宮後村・丹羽郡馬寄村・丹羽郡福塚村・丹羽郡間村・丹羽郡八幡
村・丹羽郡志麻村・丹羽郡高田村・丹羽郡東大毛村・西大毛村・丹羽郡杉山村・丹羽
郡東光明寺村・丹羽郡西光明寺村・丹羽郡笹野村・丹羽郡極楽寺村・丹羽郡富塚村・
丹羽郡佐千原村・丹羽郡丹羽村・中嶋郡一之宮村・西東西小嶋本郷・両郷寺村・丹羽
郡西浅井村・丹羽郡東浅井村・丹羽郡江森村・丹羽郡小日比野村・丹羽郡河畑村・丹
羽郡前野村・丹羽郡小関村・羽栗郡大野村・羽栗郡河田村・羽栗郡黒岩村・羽栗郡宮
田村・羽栗郡鹿子嶋村・羽栗郡後飛保村・羽栗郡前飛保村・羽栗郡飛高村・羽栗郡大
海道村・羽栗郡中奈良村・羽栗郡上奈良村・羽栗郡赤童子村・羽栗郡木賀村・羽栗郡
小折村・曾本村・佐野村・天麻村・春日井郡小木村・春日井郡舟津村・春日井郡西之
嶋村・春日井郡本庄村・春日井郡池之内村・春日井郡関田村・春日井郡中切村・春日
井郡内・愛知郡内・海東郡内・知多郡内 ★以上が文政7年（1824）頃における蜂
須賀権神主家の名古屋の町方以外の尾州の主な檀那所だが当村（国府宮村？）にも檀
那が存在。また、尾州以外では信州（木曽谷）・濃州（枚輪中等）にも檀那が存在。

蜂須賀権主家の名古屋の檀家

生駒因幡家を筆頭に有力者多し

No.	名前	住所表記等	備考【身分・屋号・職業・住所等】
1	生駒因幡	三之丸	武士
2	下條庄兵衛	三ノ丸居下	武士
3	(無記載)	口之町東ノはし南かわ	「大工」
4	小見山宗法老	本町五丁め東かわ	御目見医師・薬種商・玉屋町2丁目
5	合羽屋宇兵衛	本町八丁め西かわ	合羽屋
6	風呂屋新平	かばやき町本丁西へ入口かわ	風呂屋
7	矢野藤助	桑名町通花屋町角	
8	石屋万平	伝馬町通り桑名町西へ入北かわ石橋之そば	石屋
9	瓦屋伝兵衛	京町通り桑名町東へ行南かわ	瓦屋
10	藤屋新左衛門	納屋筋[] 橋下ル西かわ	藤屋・「みそや」・焼味噌商・大船町・伊藤氏
11	きしや藤七	江川端石橋ち壱丁ほと下	きし屋
12	きふ屋長十郎	巾下八百町大下西かわ	岐阜屋
13	後藤喜蔵	巾下海福寺東之間北かわ	
14	綿屋久兵衛	同(巾下) 江川町南かわ	綿屋
15	ふさし勘三郎	同(巾下) 薬師うら	葺師?
16	林勘九郎	紙すき町下東かわ屋敷	武士?
17	正木工匠	同(紙すき町) 辻番ち上へ二口(軒?)め西側	武士・「左官」。工匠は内匠の誤記?
18	西村新右衛門	巾下袋町上へ行西かわ同居二而	
19	大工新助	同(巾下) ばくろ町筋南新町取付西かわ	「大工」
20	節屋仙次郎	新道筋ほうろく町西ち行あたり	節屋
21	岩田屋文蔵	押切町南かわ	岩田屋・「御社壇作り」
22	舛屋忠助	東懸口(所?) 浦通りさかい町	舛屋・「酒屋也」
23	塩原次郎右衛門	巾下江川町ち口(北?)へ行当り屋敷	武士・塩原次郎右衛門の誤記



注目すべき蜂須賀権神主家の名古屋の檀家情報
 小見山宗法 (No.4) 「本町五丁め東かわ」「本町六丁目 小見山宗法店 此家ハ代々国君に拝謁し苗字帯刀を許され御領分売薬の首魁たり家に売所の烏犀円 紫雪等ミな御方の秘薬なり屋上に掲げ店前に立る烏犀円 三大字の看板ハ明人陳元賛の筆也」☞住居表記の差
 正木工匠 (No.17) 「同 (紙すき町) 辻番ち上へ二口 (軒?) め西側 左官」。名古屋城下図に「正木内匠」とみえ尾張藩士であるが、「左官」とあることから実際は左官業?☞浪人身分を示す?誤記の問題

おわりにかえて

～津島御師史料から城下町名古屋成立期の地域構造を把握する～

慶長13年（1608）1月成立の津島御師堀田右馬大夫家『大吉御檀那帳』には開削当初頃の堀川右岸部を表現した記載が散見

慶長14年（1609）4月4日条

「一 おわり なこやのきわひろゑ村ノせい七殿」

元和4年（1618）4月10日条

「一 おわり なこやのきわノおしきり村の喜兵衛殿」

☞ 広井村や押切村は尾張名古屋の《きわ（際）》と認識

宗教者史料☞近世城下町名古屋成立期（さらにはそれ以前）の地域構造を把握するための新たなツールと評価

参考文献 ※『愛知県史』や『新修名古屋市史』等の愛知県内の自治体史は省略した。

- 『愛知県史民俗調査報告書4 津島・尾張西部』（愛知県総務部総務課県史編さん室 2001年）
- 石田泰弘「津島御師・手代の廻檀活動」（『尾張藩社会の総合研究 第6篇』清文堂出版 2015年）
- 『尾張大國霊神社史料』（尾張大國霊神社 1977年）
- 久田松和則『長崎の伊勢信仰—御師をめぐる伊勢と西肥前とのネットワーク—』（長崎文献社 2018年）
- 小島廣次「津島とお天王さま」（『海と列島文化8 伊勢と熊野の海』小学館 1992年）
- 小島廣次「伊勢御師と津島御師」（『歴史地理通信』15 1983年）
- 谷戸佑紀『近世前期神宮御師の基礎的研究』（岩田書院 2018年）
- 拙稿「伊勢御師の動向と山国」（『禁裏領山国荘』高志書院 2009年）
- 拙著『中近世伊勢神宮地域の貨幣と商業組織』（岩田書院 2011年）
- 拙稿「第四章第四節 宇治山田の発展」（『伊勢市史 中世編』伊勢市 2011年）
- 拙稿「伊勢今井田時代の本居宣長に関する一考察」（『神宮と日本文化』学校法人皇學館 2012年）
- 拙稿「第二章第一節 数からみた近世宗教都市」「第三章 外宮領自治の様相」「第四章第一節 宇治郷の様相」（『伊勢市史 近世編』伊勢市 2013年）
- 拙稿「中世後期の貨幣と流通」（『岩波講座日本歴史8 中世3』岩波書店 2014年）
- 拙稿「資料紹介「大主家文書」について」（『皇學館大学研究開発推進センター紀要』1 2015年）
- 拙稿「中世末・近世初期の伊勢御師に関する一考察—外宮御師宮後三頭大夫の越前国における活動を中心に—」（『近世の伊勢神宮と地域社会』岩田書院 2015年）
- 拙稿「伊勢御師白米家について」（『白米家墓地総合調査報告～三重県伊勢市（天神丘墓地）所在、旧伊勢御師一族墓の調査』伊勢中世史研究会 2015年）
- 拙稿「第三章第二節第一項 宇治・山田の近世都市化」「第三章第二節第二項 数量記録からみた宇治・山田の姿」（『三重県史 通史編 近世1』三重県 2017年）
- 拙稿「天文年間の桧垣善五郎宛売券二通について」（『三重県史研究』32 2017年）
- 拙稿「三重県総合博物館所蔵『谷家文書』所収の伊勢御師道者売券について—中世紀州の宗教的（熊野・高野山・真宗）特質と伊勢御師の活動—」（『同朋大学仏教文化研究所紀要』38 2019年）
- 拙稿「第58回研究会発表要旨 尾州における伊勢御師の活動に関する一考察～新史料の紹介を軸として～」（『郷土文化』74-1 2019年）
- 拙稿「「尾州名古屋檀家帳」を使って、伊勢御師の檀家廻りを追体験しよう」（『名古屋の江戸を歩く』風媒社 2021年）
- 拙稿「慶長七年五月吉日付『伊勢太神宮御材木之帳』について—十七世紀初頭尾州・江州をめぐる伊勢御師榎倉家の活動に関する一史料—」（『同朋大学仏教文化研究所紀要』42 2023年）
- 遠山佳治「幕末維新期三河における伊勢御師の廻檀」（『愛知大学総合郷土研究所紀要』38 1993年）
- 遠山佳治「江戸時代、尾張における伊勢御師の状況について」（『愛知大学総合郷土研究所紀要』39 1993年）
- 『特別展「大にぎわい 城下町名古屋」開催記念 名古屋城下図集』（名古屋市博物館 2007年）
- 『幕末 城下町名古屋復元マップ 三枚セット』（名古屋市博物館 2013年）
- 『18年度文化庁芸術拠点形成事業 名古屋城下町復元プロジェクト報告書』（名古屋城下町調査実行委員会 2007年）
- 西山克『道者と地下人—中世末期の伊勢—』（吉川弘文館 1988年）
- 松村冬樹「名古屋城下町の武家屋敷地について—藩士役宅の空間的復元」（『名古屋市博物館研究紀要』29 2006年）
- 大和博幸『江戸期の広域出版流通』（新典社 2019年）